

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二五（令和七）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期〈二日目〉

二〇二五年二月四日（火）実施

国語

I 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから22ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は 記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「ことばの変化」と「社会の変化」の関係については、大きく二つの考え方がある。

ひとつは、「社会が変わったからことばも変わる」という考え方だ。たとえば、コンピューターができたから、「コンピューター」という新しいことばが使われるようになる。

これは「社会反映論」と呼ぶことが出来る。「ことばは社会を反映している」という考え方だ。ことばと社会は別のもので、先に社会が変わってから、それに伴ってことばも変わる。

しかし、(ア)この考え方では「セクハラ」の例を説明することが出来ない。「セクハラ」は女性グループの小さな気づきと(イ)ケンシンの行動によって日本に紹介された。先に社会の方に、「セクハラ」を受け入れる変化が起きていたわけではないのだ。むしろ、社会の一部には「セクハラ」を否定する動きすらあった。

もうひとつは、「社会構築論」とも呼べる考え方だ。この考え方を(エ)トナエたのが、哲学者の(送)ミシェル・フーコーだ。フーコーは、ことばは単に社会の変化を反映しているのではなく、ことばで語ることによって、その語っている現象が社会的に重要な概念になると指摘した。この、「言語」が「社会」を「構築」という指摘は、物事の見方が百八十度変わることを意味する「コペルニクスの転回」になぞらえて、「X 的転回」とも呼ばれる。

「セクハラ」の例で言えば、人々が「セクハラ」ということばを使い始めたことで、それまで長いあいだ(3)ホウチされてきた行為が、被害者を苦しめる犯罪として社会的に重要な概念になった。

社会構築論は、ことばと社会は別々なのではなく、両者は(4)ミツセツに関係しており、社会変化がことばの変化をうながすと同時に、ことばの変化も社会変化をうながすという形で、両者の変化が互いに影響を与えて、ことばと社会が一緒に変化していくと考える。

ことばと社会の関係を考える上で社会構築論は(5)ミリオク的だ。それは、社会反映論からは生まれない新しい問いを立てることができるようになるからだ。

たとえば「セクハラ」の場合を考えてみよう。社会反映論によれば、「社会のどのような変化がセクハラということばを普及させたのか」という問いが可能だが、先に見たように、これを特定するのは難しい。

一方、社会構築論に立つと「セクハラ」ということばが広く使われるようになった結果、社会はどのように変わったのか」と問うことができる。ことばが社

会をどのように変えたのかという問いだ。

読者の多くがご存じのように、「セクハラ」からは「パワハラ」や「アカハラ」などのことばが生まれ、今やこれらのことばなしには社会を理解することができないぐらい、私たちの生活は大きく変化した。

ことばが社会を変える力に注目することで、「パワハラ」や「アカハラ」の登場も含めた、「セクハラ後」の社会をより深く理解することが出来るようになるのだ。

もうひとつ、社会構築論から生まれる新しい問いの例は、「流行語」だ。

流行語は、社会変化の最先端を反映したものとみなされる。その時代を理解するために必要な、文字通りキーワードと言われるのもそのためだ。

若い読者の皆さんは、流行語をつくり出す点では、まさに時代の最先端を走っている。でも、ここでちょっと立ち止まって、流行語とは何なのか、社会の最先端を反映しているだけなのか、最先端でなくなったら忘れられていくだけなのか、少し広い視野から見てみるのもおもしろい。

そのひとつが、社会構築論から導き出される「流行語」ということばの変化が、どのように社会を変えているのか」という問いだろう。

たとえば、(イ) ちよつと前からよく聞くことばに「女子」がある。「女子会」「女子旅」「女子力」にはじまって、「リケジョ」や「歴女」^{レキジョ}。「四〇代女子」や

「オトナ女子」では、少し年齢の高い女性も「女子」と呼ばれている。「女子力」は二〇〇九年に「流行語大賞」にノミネートされ、二〇一〇年には「女子会」が同賞を受賞した。

社会反映論に従えば、どのような社会変化が「女子」を流行^{はや}らせたのかを問うことになる。「女子会」の流行に関しても、「女性が会食を楽しむ経済力を得たから」などのさまざまな社会変化がその理由として挙げられた。

一方、ことばは社会と互いに影響を与え合って変化していると考える社会構築論に立つと、右の問いに加えて、「女子」ということばが流行った結果、社会はどのように変わったのか」、また、「女子」は、どのように社会を変化させたのか」と問うことができる。「女子」を流行させた社会変化と、「女子」が流行った結果起こった社会変化の両方を見渡すことで、ひとつの流行語が引き起こした社会変化をより深く理解することが出来るようになるのだ。

このように本書では、「ことばが変わったから社会が変わる」という視点から、新しいことばの普及や流行語が起こす社会変化に注目することで、ことばが社会を変化させるメカニズムを明らかにしたい。

社会とことばの関係はさまざまな分野で研究されているが、本書は「社会言語学」という分野からこの関係を考える。

社会言語学は、その名のとおり、社会とことばの関係を扱う分野なのだが、その中でも、両者の関係をどのように理解するかについて、近年、大きな変革

があった。

そのひとつは、③ これまで「言語変化 (language change)」と呼ばれてきた現象を、「社会言語学的変化 (sociolinguistic change)」として捉えなおそうという提案だ。

(中村桃子『ことばが変われば社会が変わる』による。一部改変。)

(注) ミシエル・フーコー——フランスの構造主義、もしくはポスト構造主義をリードした哲学者。

問1 傍線部(1)ㄱ(5)のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

- (1) ケンシン (2) トナえ (3) ホウチ (4) ミッセツ (5) ミリヨク

問2 傍線部(ア)「この考え方では「セクハラ」の例を説明することが出来ない」とあるが、その理由をわかりやすくまとめたものが次の文章である。文中の空欄AㄱCに入る最も適切な語句を、本文中から書き抜いて解答欄に記入せよ。解答は記述式解答用紙。

先に社会が変わってからそれに伴ってことばも変わるというのが「A」論だが、日本では先に社会の方に「セクハラ」を受け入れる変化が起きていたわけではなく、人々が「セクハラ」ということばを使い始めたことで、「セクハラ」が被害者を苦しめる「B」として社会的に重要な「C」になったから。

問3 空欄 X に入る最も適切な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

- ① 学問 ② 「セクハラ」 ③ 言語論 ④ 社会学 ⑤ 構築論

問4 傍線部(イ)「ちょっと前からよく聞くことばに「女子」がある」とあるが、「女子」ということばと社会との関係について、本文で述べられている趣旨とは食い違っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 2。

- ① 「女子」という流行語も社会変化の最先端を反映したもので、その時代を理解するために必要なキーワードとみなされる。
- ② 「女子会」「女子旅」「女子力」にはじまって、「リケジョ」や「歴女(レキジョ)」など、「女子」に関連したことばの多くが「流行語大賞」にノミネートされたが、最先端でなくなったら忘れられていくだけである。
- ③ 「四〇代女子」や「オトナ女子」では、少し年齢の高い女性も「女子」と呼ばれていて、「女子」ということばの意味が社会変化とともに拡大している。
- ④ 「女子会」ということばも「流行語大賞」を受賞したが、「女性が会食を楽しむ経済力を得たから」などのさまざまな社会変化がその理由として挙げられた。
- ⑤ 「女子」ということばは社会と互いに影響を与え合って変化していると考えらることで、「女子」ということばが流行った結果、社会はどのように変わったのか」と問うことができる。

問5 本文で述べられている「社会反映論」と「社会構築論」との関係を説明したものととして、最も適当と思われるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

3

。

① 「ことばの変化」と「社会の変化」の関係については、「社会反映論」と「社会構築論」という大きく二つの考え方があるが、いずれも「セクハラ」ということばが生んだ社会の変化を理解するのに有効である。

② 「言語」が「社会」を「反映」し、さらに「言語」が「社会」を「構築」という指摘をしたのが、哲学者のミシェル・フーコーである。

③ 「社会反映論」と「社会構築論」を比較すると、「社会反映論」は古く誤った考え方で、「社会構築論」の方がより深くことばと社会の関係を理解できる。

④ 「社会構築論」は、「社会反映論」からは生まれない、「ことばが社会をどのように変えたのか」という新しい問いを立てることができる考え方である。

⑤ 「社会反映論」では「言語変化 (language change)」と呼ばれていた現象を、「社会構築論」では「社会言語学的変化 (sociolinguistic change)」と呼んでいる。

問6 傍線部(ウ)「これまで「言語変化(language change)」と呼ばれてきた現象を、「社会言語学的変化(sociolinguistic change)」として捉えなおそうとい

う提案だ」とあるが、本文全体を踏まえて、次の(1)～(5)のそれぞれの文について、「言語変化(language change)」に関連するものに①、「社会言語学的変化(sociolinguistic change)」に関連するものに②をマークせよ。解答番号は(1)＝、(2)＝、(3)＝、(4)＝、

(5)＝。

(1) 言語変化の社会的意義に注目し、私たちが日本語に対して持っていることばの価値やことばの使い方のルールが変化していることを重視する。

(2) 「食べられる」を「食べれる」と省略する「ら抜きことば」のように、ことばの発音や単語の形のような形式的な変化だけを「言語変化」とみなす。

(3) 言語と社会は別のものだと考え、「先に社会が変わってから、それに伴ってことばも変わる」という考え方に基づいて、言語の変化を理解する。

(4) 社会の身分制度や上下関係が希薄になった影響で、特に若者が敬語を使用しなくなり、敬語表現の誤用が目立つようになったという変化が生じたと考ええる。

(5) 新しいことばの使用や流行語に加えて、メディアにおけることばの使われ方や変化が、社会を理解する枠組みや社会変化をうながしている様子を理解する。

問7 次の文は、本文の趣旨を簡潔にまとめたものである。本文全体を踏まえながら、次のに入る適切な文章を10字以内で、

に入る適切な文章を50字以内で答えよ(ただし、句読点も一字を含む)。解答は記述式解答用紙。

本書のねらいは、「ことばが変わったから社会が変わる」というから、を明らかに

することである。

第2問 次の文章は、一九四二年に発表された小説の一節である。大家族のなかで育った良人と結婚した「福子」は、名前を裏切らないその円満な性格から、良人の家族にも親しまれていた。以下の本文を読み、問いに答えよ。

この隠居は、本家の先代の連合つれあいで、福子の良人には祖母にあたる人だった。七十六になっていたが、少し耳が遠いだけで、まだ元気で家の中のことを何とかとおさえていた。先代が築きあげた産を守って、時代に添って生かしているのも、この隠居の力だった。当主の、福子の良人には父にあたるその人は、温厚一途が取り柄で、仕事の上のことでは、まだまだ隠居の差し図の下にいた。

「隠居さんが(ア) 采配を振っている間はいいが、今にいらなくなったら博士も困ることだろう。」

(ア) 親類の間では、当主はこんな冷やかし言葉で呼ばれていた。読書好きな人で、暇さえあれば居間にこもって書物を読んだり書き物をしたりしている。利殖の道には疎い人だと、誰でもが言っていた。

本家は、大家族で、隠居を頭に、当主夫婦、跡継ぎの孫夫婦に子供たち、それに嫁入り前の孫娘たちに召使を入ると二十人からの賑やかさだった。このほかに、別に家を持っている孫達がいたが、福子の良人もその一人で、結婚してまだ一年もたっていないかった。

本家の柱になっている隠居は、みんなから大事にされて、「おばあさま、おばあさま」と、なかなかの人気である。別暮しをしている孫嫁たちも入れかわり立ちかわり訪ねては、隠居に優しく、真心から尽つくそうとする。

「おばあさま。きょうは、好きな餅菓子を見つけてまいりましたのよ。」

こう言って隠居を喜ばせる嫁がいるかと思うと、隠居を茶室へ招じ入れてお茶を点てて喜ばせる嫁もいる。

「すまんことだね。隠居さんは日本中での仕合せ者ですよ。」

心からうれしそうに、隠居は満足気げだった。自分のことを、こうして「隠居さん」と言い慣わしていたが、気丈そうに見える年寄りも、何かそんなことでユーモラスな愛すべき人に見えるのだった。

「おばあさまが喜んで下さることだったら、何なんでもいたしますわ。あさってあたり、(注一) お懐石かいせきでもしようかと、わたし、こっそり計画していますのよ。」二ばん目の孫嫁はお茶に熱心だった。時折り、年寄りを主客にして懐石料理を楽しませては、自分だけという取り入り方で、ほかの嫁たちに負けまいとつとめるのだった。

誰でもが隠居の(ロ) 寵ちやうを得ようとしていた。料理の上手な者は料理で、お針の上手な者はお針で、それから別に取り柄のない者は隠居の足腰をもんでや

ったり使いを足したり、かわや 厠にまでついて行つていろいろと優しく心遣いをみせた。

「隠居さんは、ほんとうに仕合せだねえ。」

人に会いさえすれば、隠居はこうわが身の幸福を語らずにはいられなかった。

「お羨やましいことですよ。前世から持つてきなすつた福運なんですからね。」

聞き手は、隠居のいかにも仕合せそうなにこやかな面差しおもぎを見て自分もやはり仕合せな気がするのだった。

福子は、そのような隠居を見ていると、何がなし哀しくなつてくるのだった。みんなの心遣いを喜んで受けている隠居が、何か、その心遣いを無理強いさ
れているように見えてならない。(イ) 隠居が喜べば喜ぶほど、哀しい気がした。

「福子さん。あなたって、笑っているばかりが能なのね。少しは、おばあさまのことをしてあげたらどうなの。」

はは 姑からこんな優しい注意をうけたりした。

福子は、びっくりして、丸い眼を見張つて姑を見あげた。

「どんなことをしておあげたらいいでしょう、お母さま。」

「そりゃ、あなた。お姉さまがたのなさることを見ていらつしたら、わかるでしょう。おばあさまの御機嫌をとらないで、あなたも暢気のんな人ね。」

姑は親身な顔でこう言った。(ウ) そのように暢気な福子を、いじらしく思っているふうだった。

「福子さんて、ほんとうに(エ) お嬢さんねえ。」

と、ほかの嫁たちは噂うわさしあつた。世間のことなどまだ分らないほどの子供なのだ、笑っているばかりが取り柄なのだろうと、軽くしか考えなかった。隠居を中にしての競争相手に、福子は入っていないかった。

「無邪気な可愛い方！」

と、みんなは福子を見ると、やはり、心がやわらぐのだった。

(中略)

或る日、福子が本家へ行くと、めずらしくあによめ 嫂たちが寄り合つて、茶の間で何か相談事をしてるところだった。

「あら、福子さんがいらつした。」

みんな喜んで迎えてくれた。

「本気なお顔をして、なんの御相談？」

福子も、そこへ割りこんだ。嫂たちの何やら真剣な表情が可笑しくってならなかった。

「近いうちね、おばあさまの慰安会をしましょうって、今御相談していたところなのよ。」
上の嫂が教えた。

「各自、持ち寄りの御馳走ではいかが？ 時節柄、お重詰にして、めいめい腕をふるいあったら、おばあさまもお喜びなさってよ。」

二ばん目の嫂は、自信ありげな口調だった。

「福子さんのお料理は、なあに？」

と、いつのまにか仲間入りしていた小姑が訊ねた。

(三) 「わたし？ わたしは、おでんよ。」

福子がすましてこう言ったので、みんな、どつと笑った。

「わたくしね、^(注2) 普茶料理にしますわ。みなさん、どうぞ、かち合わないようにね。」

三ばん目の嫂が攻勢に出た。

二ばん目の嫂は、ちよつと白けた顔で、

「あら、普茶なの？ おばあさま、あまり好きじゃないと思うけど……」

と、逸らしたふうに言った。

「そう。お世話さま。おばあさまね、いつだったか、とてもお気に召しましてね。」

三ばん目の嫂は、にこやかな顔で応酬した。

「おばあさまも、この頃は、お好みが変わりましてね。純粹のお懷石でないとお口にあいせんよ。」
こう言っておいて、二ばん目の嫂は急に話題を変えた。

はぐらかされた三ばん目の嫂は、唇をキュッと釣って、聞えない振りで紅茶の匙をまわしていた。

福子は、さつきから可笑しくてならなかった。嫂たちの真剣な顔や、皮肉な応酬や、氣持の探りあいなどを見ると、しぜん、笑いがこみあげてくる。

「福子さんたら、困った人ね。」

上の嫂も、つりこまれて笑っていた。

客の帰った気配がしたので、福子は奥へ行ってみた。

隠居は、たった一人でお茶を飲みながら何か思案をしていた。

「おばあさま。わたしもお茶いただきたいの。」

福子を見ると、隠居はどういうつもりか眼鏡をはずして、にこにこを迎えた。

「さあさま、おあがり。」

そして、自分で淹^いれて勧めた。

陽光がいつか縁からひいていた。福子は立って行って、硝子戸^{ガラスド}をしめた。

（オ）「あちらは、大分、賑やかなようだね。」

隠居は福子を相手にしていると、何となしほぐれて自然な気持だった。

福子もまた、このおばあさまの前に坐^{すわ}ると、何もかも忘れて、生れたままの相^{すがた}で大きな懐^{ふとこ}ろに抱かれている感じだった。

隠居が福子に見るのは、無垢な純真さだった。隠居には、その心が何よりだったのである。

福子が隠居に求めるのは、祖母の愛情だけだった。

このほかに、何の要求もないということで、二人は親密に結ばれているようだった。

（矢田津世子『万年青』による。一部改変。）

（注） 1 お懐石——懐石料理のこと。茶会で、濃茶の前に供する簡素な料理。

2 普茶料理——中国から伝えられた精進料理。

問1 二重傍線部（a）「采配を振っている」、（b）「寵を得ようと」、（c）「お嬢さん」の本文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は a 〓 9、b 〓 10、c 〓 11。

（a） 「采配を振っている」

- ① 何かと尽力している
- ② 周囲に目配りをしている
- ③ 主人の手助けをしている
- ④ 若い人に目を掛けている
- ⑤ 家のことを取り仕切っている

（b） 「寵を得ようと」

- ① 望みどおりになろうと
- ② 肩を持つてもらおうと
- ③ 気に入られようと
- ④ 好みに合わせようと
- ⑤ 後ろ盾になろうと

（c） 「お嬢さん」

- ① 奥ゆかしい
- ② 上品である
- ③ 笑い上戸である
- ④ 世慣れていない
- ⑤ 幼稚なところがある

問2 傍線部（ア）「親類の間では、当主はこんな冷やかし言葉で呼ばれていた」とあるが、この場合の「冷やかし言葉」に当たるのは何か。もっとも適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 隠居
- ② 本の虫
- ③ 温厚一途
- ④ 博士
- ⑤ 利殖の道に疎い人

問3 傍線部（イ）「隠居が喜べば喜ぶほど、哀しい気がした」とあるが、この部分の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

13

。

- ① 孫娘たちの人気を一身に受け、幸せそうに振舞う隠居の様子をうかがううちに、福子は隠居が孫娘たちに気を遣って大げさに喜んで見せているのではないかと疑い始めた。
- ② 孫娘たちの優しい心遣いは、隠居に前世から持ち越した福運を気づかせ、よい来世を予告するものであるのに、福子は隠居がそのような含意に気づかないのが物悲しかった。
- ③ 孫娘たちが、それぞれ個性的な特技を持ち合わせていることを喜ぶ隠居の様子を見ているうちに、福子は自分には取り立てて発揮できる能力がないことが、改めて辛くなった。
- ④ 自分を喜ばせようとする孫娘たちの気遣いが嬉しく^{うれ}てたまらないような隠居の言動を見ているうちに、福子はそうに単純に物事を捉えてしまふ隠居の老いが情けなくなった。
- ⑤ 自分を喜ばせようとする孫娘たちの気遣いを受け止め、満足の意を周囲に告げる隠居の様子を見ているうちに、福子は隠居が感謝を強要されていると感じられ、切なくなった。

問4 傍線部(ウ)「そのように暢気な福子を、いじらしく思っているふうだった」とあるが、なぜそのように思うのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 14。

- ① 福子が、隠居を中心に展開する孫嫁たちの関係から除外されているにもかかわらず、本人がそれに無頓着であるらしいから。
- ② 福子が、隠居の寵を争う孫嫁たちの競争に加わりうとせず、またその必要性にも思い至らない初々しい様子であるから。
- ③ 福子の、競争を好まず、周囲を明るくしようとする性格が、この家の孫嫁としては得がたいものであると改めて感じたから。
- ④ 福子は、年長の孫嫁たちから愛されていると同時に少し軽んじられてもいるが、本人はそれに気づかず笑ってばかりいるから。
- ⑤ 福子は、隠居の機嫌を取らないばかりか、注意されても何をすべきかわからないほどのんびりしており、そのことに呆れたから。

問5 傍線部(エ)「わたし? わたしは、おでんよ。」福子がすましてこう言ったので、みんな、どっと笑った」とあるが、この場面の笑いの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 15。

- ① 嫂たちが互いのアイディアを探り合い、選りすぐった献立を考えていたところに、福子は素朴さで勝負とばかり「おでん」を挙げた。嫂たちはその知恵の浅さに思わず笑った。いわば失笑。
- ② 慰労会の献立の候補として嫂たちがあげた凝った料理と、福子が挙げたありふれた「おでん」には大きな差があり、その意外さに嫂たちは虚を突かれた。そこからくる、とっさの軽い驚きを含んだ笑い。
- ③ 慰労会の献立について皆が真剣に思案をめぐらす中、福子がいつもの自然体で、庶民的で実質的なメニューを挙げたため、座が和み、笑いが出た。そのような、緊張がゆるんだことによる笑い。
- ④ 「おでん」というありふれたものを、慰労会の献立にしてしまう福子の無邪気を装ったしたたかさに、嫂たちは一本取られたと感じた。そのような賞賛と降参の意を含んだ笑い。
- ⑤ 隠居をめぐる競争に参加していない福子は、周囲から無邪気で愛らしいと見られていた。このときの「おでん」の発言も、まさに予想通りで、

意外性に欠けるそれに軽い失望と軽蔑を感じた。そのような軽蔑を含んだ笑い。

問6 傍線部(オ)「あちらは、大分、賑やかなようだね。」とあるが、「隠居」の発言に込められている気持ちを、次の
に入る形で、それぞれ

れ A は20字以内、 B は15字以内でわかりやすく説明せよ。解答は 記述式解答用紙。

孫嫁たちが A ことを疎ましいように思い、福子の B に安らぎを覚えている。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（16 ページ～18 ページ）

【大学】 文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（19 ページ～22 ページ）

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

修羅場を乗り越えて成長する人

不幸に感じるような体験、ここに痛みを感じるような経験をした人のなかには、素晴らしい自己成長を遂げる人がいます。このポジティブな変容現象について考えるとき、私の頭にいつも思い浮かぶのがマンガ『ドラゴンボール』です。

『ドラゴンボール』は一九八四年から約一〇年間に渡って週刊少年ジャンプで長期連載された伝説的なマンガです。世界で最も売れたマンガ作品であり、そのコミックスは三・五億冊を超える売れ行きを見せ、いまだに伸び続けています。

その人気の秘密には何と言っても主人公の孫悟空が見せる「修羅場の後の成長」のストーリーがあります。孫悟空は数々の強敵と対峙しますが、その度に強くなり勝利をおさめてきました。師との厳しい修行を経て強くなり、さらにはライバルとの死闘で命を落としかけたところを再起して、以前よりほるかにパワーアップします。

サイヤ人という戦闘種族の血をひく孫悟空は、生命の危険にさらされるような危機を乗り越えたときに、その肉体がより強靱^{じん}となって生まれ変わる血が流れているからです。

孫悟空が修羅場を乗り越えながら心身ともに強く大きく育っていくその過程を多くの日本人の子どもはわくわくしながら読み続けていました。この「修羅場の後の成長」は、マンガの世界だけに起こることではありません。現実にも起こりうる現象なのです。

その成長は計画的にできるものではありません。予期せぬ問題に直面し、こころや感情が揺さぶられるようなつらい体験をし、それを乗り越えたときに達成できる心理的な成長です。そのためには、困難や苦しみから逃げ出してはいけません。たとえ自分が不快に感じることも、精神的な痛みを感じようとも、勇気を持ってその挑戦を受け入れることができた人にだけ与えられる報酬なのです。

この変容を学者は「PTG（トラウマ後の成長）」と呼びました。精神的な痛みをともなう体験の後に訪れる自己成長のプロセスです。

もがき奮闘した人にもたらされる五つの成長

PTG研究の第一人者である米・ノースカロライナ大学のリチャード・テデスキ博士はPTGを「非常に挑戦的な人生の危機でもがき奮闘した結果起こるポジティブな変化の体験」と定義しています。博士が強調するのは「もがき奮闘する」という点です。自分の力ではどうにもならないような危機をもが

き苦しみなながらも努力の結果乗り越えたときに「ポジティブな変化」がその人の内面で生まれる。それがPTGであると博士は考えました。

トラウマを受け入れ、もがき奮闘し、乗り越えた人にもたらされたポジティブな変化はどれも内的なものばかりです。必ずしも他人から見て気づくようなものではありません。

しかし、PTGを体験した多くの人は、その内面からの変化が人としての成長にもつながり、家族や周りの人から「苦労をしたけれど、何だか変わったね」と言われるほどになっています。そのポジティブな違いが内側からにじみ出てくるのでしょう。

PTGを体験した人にはおもに五つの変化が見られます。

第一の変化は、全般的な「生」に対しての感謝の気持ちが増すことです。それまで気にもしていなかったような小さな出来事に対しても、喜びを感じるようになるのです。毎日の生活のなかで、感謝の念を感じることが多くなる。その背景にあるのは自分の生命に対してのありがたみ、感謝の気持ちです。

「ああ、自分は生きることができて幸せだ」という感謝の感情がその背景にはあります。

第二の変化は、人間関係に関するものです。真の友人とは人生の修羅場で助けの手を差しのべてくれる人です。しかし逆境になったときに、親友だと思っていた人が助けてくれないことがあり、逆にしばらく会っていない人に救われることもあります。新しい人間関係が得られる一方で、過去の人間関係を失うこともある。痛みをとまなう変化です。

第三の変化は、自分の強さに対しての理解の深まりです。自分の力ではどうすることもできないほどの危機を乗り越えたとき、大いなる自信が湧いてくる。しかしその自信は過去のものとは異なります。それはより正確な自己の強さの認識であるとともに、自分の人間としての弱さやはかなさの知覚でもあるからです。

そして感謝の念、人間関係の変化、自己の強さの認識が自分の視野を広げ、その後の人生のまったく新しい可能性を感じさせるドアを開かせます。人生観・価値観・仕事観が根底から変化してしまう。これが第四の変化である「新しい価値観」です。

さらには精神的な変化を体験した人もいます。自分の命が危険にさらされる苦境を乗り越えて、存在や霊性に対しての意識が高まるのです。これは宗教観とは関係なく、より根源的で本質的な深い意識の目覚めで、気づきだと考えられます。これが第五の変化である自己の存在とスピリチュアリティに対する意識の高まりです。

まとめると、「生への感謝」「深い人間関係」「自己の強さ」「新しい価値観」「存在と霊的意識の高まり」という五つの変化がづらい体験をした後に一部の人に見られる自己の内面の成長です。

P T Gを体験した人のなかには、自分の人生の目的や仕事の意味が大きく変化し、その結果優先順位がシフトし、職業を変えた人がいます。人から助けられた体験が仕事観に影響し、看護婦や心理カウンセラー、そしてソーシャルワーカーなどの人助けを専門とする職業にキャリアチェンジしたケースも少なくありません。自分の新たな才能や強みに目覚め、より意義のある仕事に変える人もいます。

「ノーペイン、ノーゲイン」。失った後こそ得られるものが存在するのでしょうか。

（久世浩司『世界のエリートがIQ・学歴よりも重視！「レジリエンス」の鍛え方』による。一部改変。）

問 あなたは、筆者の意見についてどのように考えるか。条件に従って240字～300字で書け（ただし、句読点も一字に含む）。解答は記述式解答用紙。

この欄は下書き用である。

【条件】

- ① 常体で書くこと。
- ② 文のねじれや誤字・脱字がないように書くこと。
- ③ 一文目は、筆者の意見を簡潔に書くこと。
- ④ 二文目は、筆者の意見に対して、「賛成」「反対」の立場を明らかにすること。
- ⑤ 三文目以降は、④についての理由を自分の経験や知識と関連付けて書くこと。

第4問【古文】 次の文章は『源氏物語』紅葉賀巻の冒頭で、朱雀院への行幸の試楽が行われ、源氏が青海波を舞う場面である。これを読んで後の問いに答えよ。

朱雀院の行幸は（a）神無月の十日あまりなり。世の常ならず、おもしろかるべきたびのことなりければ、御方々、物見たまは（A）ぬことをくちをしがりたまふ。上も、（注1）藤壺つぼの見たまはざらむを、飽かずおぼさるれば、（注2）試楽を御前にてせさせたまふ。源氏の中将は、（注3）青海波をぞ舞ひたまひける。片手には（注4）大殿の頭の中将、容貌、用意、人にはことなるを、立ち並びては、なほ（ア）花のかたはらの深山木みやまぎなり。入리카たの日かげ、さやかにさしたるに、楽の声まさり、もののおもしろきほどに、同じ舞の足踏み、おももち、世に見え（B）ぬさまなり。詠などしたまへるは、これや、（注5）仏の御迦陵頻伽おかりようびんがの声ならむと聞こゆ。おもしろくあはれるに、帝、涙をのごひたまひ、上達部、親王たちも、みな泣きたまひ（C）ぬ。詠果てて、袖うちなほしたまへるに、待ちとりたる楽のにぎはしきに、顔の色あひまさりて、常よりも光ると見えたまふ。（注6）春宮とうぐうの女御、かくめでたきにつけても、ただならず（b）おぼしめて、「神など、空にめでつべき容貌かな。うたてゆゆし」とのたまふを、若き女房などは、心憂しと耳とどめけり。藤壺は、（イ）おほけなき心のなからましかば、ましてめでたく見えましとおぼすに、夢のこちなむしたまひける。

宮は、（c）やがて御宿直なりけり。「今日の試楽は、青海波に事みな尽き（D）ぬ。いかが見たまひつる」と聞こえたまへば、あいなう、御いらへ聞こえにくくて、「異にはべりつ」とばかり聞こえたまふ。「片手もけしうはあらずこそ見えつれ。舞のさま手づかひなむ、家の子は異なる。この世に名を得たる舞の男どもも、げにいとかしこけれど、ここしうなまめいたる筋を、えなむ見せ（E）ぬ。こころみの日かく尽くしつれば、紅葉かぎの蔭やさうぎうしくと思へど、見せたてまつらむの心にて、用意せさせつる」など（ウ）聞こえたまふ。

- (注)
- 1 藤壺 — 源氏の父桐壺帝きりの女御。源氏との不義の子を懷妊している。後文の「宮」も同一人物。
 - 2 試楽 — 舞樂の予行演習。
 - 3 青海波 — 舞樂の曲名。
 - 4 大殿の頭の中将 — 左大臣の子息である頭の中将。源氏の妻・葵あおいの上の兄。
 - 5 仏の御迦陵頻伽あみだの声 — 阿弥陀如来の、迦陵頻伽（極樂にいる美声の鳥）のような説法の妙音。
 - 6 春宮の女御 — 東宮の母である女御。弘徽殿こきの女御。

問3 傍線部(ア)「花のかたはらの深山木なり」とは、どういうことか。説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

20。

- ① 源氏と並び立っていても、桜の花に勝るとも劣らない緑豊かな木のように見え、すばらしい。
- ② 源氏と並び立っているおかげで、本来は目立たない存在だが、一躍注目の的となっている。
- ③ 源氏と並び立っているので、緊張感から本来の能力が発揮できず、動きが固くてぎこちない。
- ④ 源氏と並び立っているせいで、源氏の容姿や立ち居振る舞いと比較されてしまい、目立たない。
- ⑤ 源氏と並び立っているが、どの人よりも容貌や気くばりが優れており、この上ない存在感がある。

問4 傍線部(イ)「おほけなき心のなからましかば、ましてめでたく見えまし」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番

号は

21。

- ① 源氏との密通について、桐壺帝が遺憾の意を示されなかったとしたら、一層すばらしく見えるであろうに。
- ② 源氏との密通について、桐壺帝の寛大な気持ちがなかったとしたら、少しもすばらしく見えなかっただろう。
- ③ 源氏と密通するという身分不相応な気持ちがなかったので、一層すばらしく見えることよ。
- ④ 源氏と密通すると思いがけない気持ちがなかったとしたら、少しもすばらしく見えなかっただろう。
- ⑤ 源氏と密通するという大それた気持ちがなかったとしたら、一層すばらしく見えるであろうに。

問5 傍線部(ウ)「聞こえたまふ」に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 「聞こえ」は作者から藤壺女御に対する謙譲語、「たまふ」は作者から桐壺帝に対する尊敬語である。
- ② 「聞こえ」は作者から藤壺女御に対する尊敬語、「たまふ」は作者から桐壺帝に対する謙譲語である。
- ③ 「聞こえ」は作者から桐壺帝に対する謙譲語、「たまふ」は作者から藤壺女御に対する尊敬語である。
- ④ 「聞こえ」は作者から藤壺女御に対する謙譲語、「たまふ」は藤壺女御から桐壺帝に対する尊敬語である。
- ⑤ 「聞こえ」は藤壺女御から桐壺帝に対する尊敬語、「たまふ」は作者から読者に対する丁寧語である。

問6 『源氏物語』以後に成立した作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 『竹取物語』
- ② 『古今和歌集』
- ③ 『土佐日記』
- ④ 『更級日記』
- ⑤ 『伊勢物語』

2025(令和7)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜Ⅰ期（2日目／2025年2月4日実施）
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	③	3
	2	②	4
	3	④	4
	4	②	3
	5	①	3
	6	①	3
	7	①	3
	8	②	3
第2問	9	⑤	3
	10	③	2
	11	④	2
	12	④	3
	13	⑤	4
	14	②	4
	15	③	4

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	③	3
	2	②	4
	3	④	4
	4	②	3
	5	①	3
	6	①	3
	7	①	3
	8	②	3
第2問	9	⑤	3
	10	③	2
	11	④	2
	12	④	3
	13	⑤	4
	14	②	4
	15	③	4
第4問	16	④	2
	17	⑤	2
	18	④	2
	19	②	3
	20	④	3
	21	⑤	3
	22	①	3
	23	④	2

マーク	48
記述	52
計	100

マーク	68
記述	32
計	100

記述式解答用紙 「国語」

解答例

受験番号			
志望学科			
学科			
専攻	氏名		
専攻			

※専攻は「経済学科」「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

問1	1	献身
4	密接	
5		2
魅力	唱え	3
各2点	放置	

問2

A	社会反映	B	犯罪	C	概念	各2点
---	------	---	----	---	----	-----

問7

Y	「社会構築論」の視点	10点	3点
Z	新しいことばの普及や流行語が起す社会変化さ	40点	20点
せめるメカニズム	化に注目する	50点	5点

第2問

問6

A	自分の寵を得ることに熱中して	20点	4点
B	無垢で純真な心のありよう	15点	4点

※第3問の解答欄は裏面です。

第3問 (横書き)

筆者	は	、	予	期	せ	ぬ	問	題	や	困	難	か	ら	逃	げ	ず	に	、
乗	り	こ	え	た	と	き	に	心	理的	的	成	長	に	つ	な	が	る	こ
と	を	述	べ	て	い	る	。	私	は	そ	の	主	張	に	共	感	し	た
困	難	を	乗	り	越	え	る	こ	と	が	、	自	分	の	自	信	や	心
強	さ	に	つ	な	が	る	と	思	う	か	ら	だ	。	私	は	、	高	校
の	時	、	バ	レ	一	部	に	所	属	し	て	い	た	が	、	練	習	の
し	さ	に	仲	間	が	ど	ん	ど	ん	退	部	し	、	四	人	に	な	っ
し	ま	っ	た	期	間	が	あ	っ	た	。	そ	の	期	間	は	練	習	も
ま	な	ら	ず	、	悩	む	こ	と	ば	か	り	だ	っ	た	が	、	自	分
何	が	で	き	る	か	を	考	え	、	最	後	ま	で	諦	め	ず	に	全
で	練	習	に	取	り	組	ん	だ	。	こ	の	経	験	は	、	今	も	何
あ	る	に	に	自	分	の	大	き	な	支	え	と	な	っ	て	い	る	。
今	後	も	問	題	や	困	難	か	ら	逃	げ	ず	に	、	自	分	を	信
て	、	さ	ら	な	る	成	長	を	し	て	い	き	た	い	。			

240

300

20 点